問題 4 次のプログラムの説明を読み、プログラム中の に入れるべき適切な字 句を解答群から選べ。

「プログラムの説明】

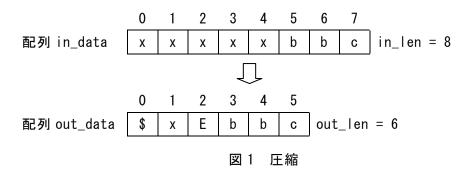
英字で構成される文字列の圧縮・伸張をランレングス符号化で行うプログラムである。ランレングス符号化とはデータ圧縮に用いられる符号化の一種で、制御文字(\$)、連続する同じ値と、その個数の組み合わせで次のような形式で表現する。連続する同一文字のデータの個数は最大26とし、1、2、…、26を A、B、…、Zで表す。なお、連続する同一文字のデータが3文字以内の場合は、圧縮は行わない。

[制御文字(\$)] [データ] [個数] [制御文字(\$)] [データ] [個数] …

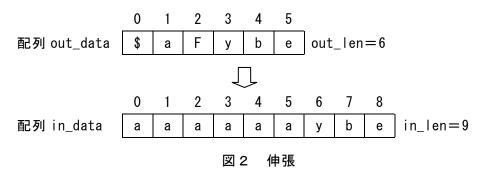
例 1	\$ a F \$ b J	データ a が 6 個連続し, データ b が 10 個連続する
例 2	\$ c E d d	データ c が 5 個連続し, データ d が 2 個連続する

ここで,圧縮前の文字列は255文字以内であり,圧縮は関数comp,伸張は関数developで行う。

関数 comp では、配列 in_data に格納されている圧縮前の文字列を受け取り、圧縮後の文字列を配列 out_data に格納する。なお、in_len、out_len は、それぞれ配列 in_data と配列 out_data に格納されている文字列の長さである。



関数 develop では、配列 out_data に格納されている圧縮されている文字列を受け取り、伸張後の文字列を配列 in_data に格納する。



関数compと関数developで使用している関数toalphaと関数tointの仕様は次の通りである。

[関数 toalpha の仕様]

整数1, 2, …, 26を順に英字 A, B, …, Zに変換する。

引数/返却值	データ型	意味
引数	整数型	整数1, 2, …, 26の値
返却值	文字型	引数に対応した英字

[関数 toint の仕様]

英字 A, B, …, Zを順に整数1, 2, …, 26に変換する。

引数/返却値	データ型	意味
引数	文字型	英字 A, B, …, Zの文字
返却值	整数型	引数に対応した整数の値

[擬似言語の記述形式の説明]

記述形式	説明
0	手続き、変数などの名前、型などを宣言する
・変数 ← 式	変数に式の値を代入する
/* 文 */	注釈を記述する
▲ 条件式	選択処理を示す。
・処理 1	条件式が真の時は処理1を実行し,
	偽の時は処理2を実行する。
・処理 2	
★	
■ 条件式	前判定繰り返し処理を示す。
・処理	条件式が真の間、処理を実行する。

[演算子と優先順位]

演算の種類	演算子	優先順位
単項演算	+, -, not	高
乗除演算	*, /, %	†
加減演算	+, -	
関係演算	$>$, $<$, \geq , \leq , $=$, \neq	
論理積	and	
論理和	or	低

注記 整数同士の除算では,整数の商を結果として返す。%演算子は剰余算を表す。

```
[プログラム]
```

- ○関数 comp (文字型配列:in_data[], out_data[], 整数型:in_len) 〇整数型:cnt, i, j, k, m, out_len ; ○文字型:work; /* 文字列の圧縮 */ • i ← 0 $\cdot \mathbf{k} \leftarrow 0$ k < in_len</pre> • work ← in_data[k] • cnt \leftarrow 1 • $m \leftarrow k + 1$ (1) • cnt \leftarrow cnt + 1 \cdot m \leftarrow m + 1 \blacktriangle cnt \geqq 4 • out_data[i] ← '\$' • out data[i+1] \leftarrow work • out_data[i+2] ← toalpha(cnt) \cdot i \leftarrow i + 3 • j ← 0 **(2)** \cdot out_data[i] \leftarrow work \cdot i \leftarrow i + 1 • j ← j + 1 (3) •out len \leftarrow i return out_len
- (1) の解答群

ア. m < in_len and work = in_data[m]
イ. m ≦ in_len and work ≠ in_data[m]
ウ. m ≦ in len or work = in data[m]</pre>

(2) の解答群

 \mathcal{T} . j < cnt -1 \mathcal{T} . j < cnt \mathcal{T} . j \geq cnt

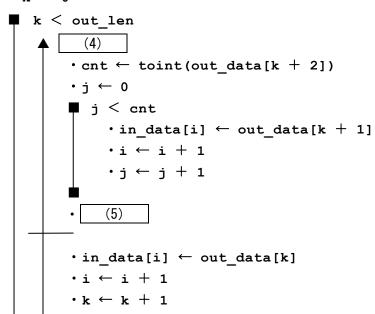
(3) の解答群

 $\mathcal{P}.\ \mathbf{k}\leftarrow\mathbf{k}+\mathbf{1}$ $\mathcal{A}.\ \mathbf{k}\leftarrow\mathbf{m}-\mathbf{1}$ $\dot{\mathcal{P}}.\ \mathbf{k}\leftarrow\mathbf{m}$

- 〇関数 develop (文字型配列: $in_data[]$, $out_data[]$, 整数型: out_len)
- ○整数型:cnt, i, j, k, m, in_len;
- ○文字型: work;

/* 文字列の伸張 */

- i ← 0
- $k \leftarrow 0$



- \cdot in_len \leftarrow i
- return in len

(4) の解答群

(5) の解答群

$$\mathcal{P}$$
. $k \leftarrow k + 1$ \mathcal{P} . $k \leftarrow k + 2$ \mathcal{P} . $k \leftarrow k + 3$